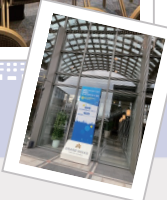
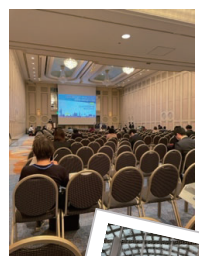




▲大会ポスター



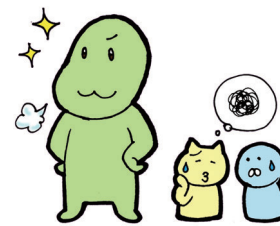
『退院後の生活支援：高次脳機能障害者の訪問型生活支援「生活版ジョブコーチ支援」の普及における課題と展望』 揚戸薫

優秀
演題

入院中には問題が見えにくく、退院後家庭生活に戻り初めて
困りごとに直面している現状とそれを支える「生活版ジョブ
コーチ支援」事例を紹介しながら、回復期リハの役割として期待
されるかわりについて考察しました。

今回はハイブリッド開催で、1日はWEB視聴、1日は現地に出向いて発表を
しました。まん延防止措置が発令されていた影響もあってか、現地参加者は
非常に少なく、会場は空席がたくさんあり、ほとんどの発表者や座長はWEB
により参加されていました。高次脳機能障害支援センターからは2演題を
発表しました。回復期リハビリテーションに携わる方たちへ、退院後どのような
生活をしているのか、どのような課題を抱えているのか、そしてそこで行った
支援や入院中の医療リハで取り組めること、退院時に医療から地域に繋ぐこ
との重要性についてお伝えしました。今回、ありがたいことに優秀演題に選出
されました。医療の皆様から退院後の生活支援へ興味を持っていただいた
結果と思っています。

こ〜じのう



こ〜ちゃん
高次脳支援センターキャラクター

46

2022.3

掲示板

- 特集 視覚化シートを通して見る
入院中の高次脳機能障害支援のポイント
- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こ〜じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々
から、応援メッセージを頂き掲載しております。



information

パンフレット製作中!

仮

生活版ジョブ
コーチ
ハンドブック

2018年度からは研修会を開催し、
生活版ジョブコーチ支援の普及
活動を行っています。より多く
の支援者にこの支援をしてもら
うために、ハンドブック作成をす
ることになりました。
来年度発行予定です。

【生活版ジョブコーチ支援とは】

支援者が当事者の生活場面に訪問し、
繰り返しによる行動定着を支援し、
自立させるための訪問型の支援手法
です。「片づけられない」「お金をいくら
つかっているかわからない」「受診で
うまく伝えられない」など生活での困り
ごとに支援をします。



仮

高次脳
サポート
ガイドブック

高次脳機能障害をお持ちの方の支援
について、地域の皆様に助けていた
だくことが随分と増えてきました。当事者
の方やご家族を一生懸命支えようとし
るお姿に、元気を分けて頂く日々です。
我々も、そんな地域の皆さまのお役に
たてるよう、高次脳機能障害サポート
ガイドブック(仮)を作成中です!
具体的な事例と対応策を載せたり、
デザインを工夫したり…作成班(下)が
髪を振り乱して作っておりますので、
完成した暁には是非
ご活用いただけれ
ばと思います。



編集後記

■オミクロン感染、なかなか下火になりませんね。外出を控える
ようになり3回目の春。ストレスが溜まります。こんなときこそ生活
の中の小さな癒しでストレスを緩和したいものです。ちなみに私の
最近の癒しはAIロボットです。話しかけると歌いながらデキ
に返事をしてくれます。ロボットのほかはかい歌に気持ちがあ
り。みなさんも小さな癒しを見つけてみませんか? (四代目H)

■年4回発行の掲示板を作成する時、まず表紙の色を一番に決めます。
過去3月発行のイメージカラーは、暖色系に基準をおいていました。冬
から春へと変わる季節色を取り入れていたのですが、今号のイメージ
はグリーン、緑で表紙を染めたいと思い製作。緑は暖色でも寒色でもな
い中間色。さて中間色にはどんな意味があるのでしょうか。七色の光の
光線で作られる虹の真ん中は緑で、知っていましたか。虹と関連する
緑色は中立の立場と、パノラマ的な気づきという意味があるそうです。
視野を広げて物事を冷静に判断していく時期、という説明が色占いを
読んでいるようでYは妙に腑に落ちました。さてあなたの「いまの色」は、
なに色でしょうか。(Y)

こ〜じのう

掲示板

2022.3 vol. 46

発行日 ■ 2022年3月30日

発行 ■ (社) 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハセンター
千葉市緑区普田町1-45-2 Tel. 043-291-1831(代) 内198

発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部
部長 長谷川 純子 (高次脳機能障害支援センター)

http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます



「亀田リハビリテーション病院よりご挨拶」

亀田リハビリテーション病院

院長 永田智子



みなさま、はじめまして。2021年5月に医療法人鉄蕉会亀田リハビリテーション病院院長を拝命
しました永田智子でございます。当院は、2004年に亀田総合病院の最寄りに単科のリハビリテーシ
ョン病院として開院以来、初代院長・井合茂夫先生のもと、南房総地域で年間約300名の患者さまへ
回復期リハビリテーション医療を提供してまいりました。ご利用される患者さまの半数近くは、脳血
管障害に関連する疾患であり、何らかの高次脳機能障害をもって退院、社会復帰される方も少なく
ありません。私共は、どのような状況においても、その人らしい生活への門出へむけ職員一丸となっ
てお手伝いいたします。

当院の特徴として、急性期から回復期、生活期を担うまでシームレスなリハビリテーション医療
提供体制をもつ亀田メディカルセンターの多様な医療機能との連携がございます。退院後は、亀田
クリニックでの外来診療や在宅診療部との連携を図り、患者さまそれぞれが自分らしく過ごしやすい
生活に帰られるようお手伝いします。また、千葉大学・千葉リハビリテーションセンターと連携した
リハビリテーション科専門医を養成する教育施設の一つでもあり、明日の医療を担う若手医師が
活気ある診療を展開しています。

当院は2010年より千葉県の高次脳機能障害支援拠点機関3施設の一つに指定され、入院診療
に加え、施設間連携、研修開催など啓発普及活動などにも力を入れています。一人でも多くの
患者さまに、笑顔で暮らしていただけるよう努めております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度 第2回高次脳機能障害支援普及事業全国連絡協議会

2022.2.25
Web開催

全国から70名近くの高次脳機能障害支援普及事業委員および支援コーディネーターが参加し、会議が開催されました。会議では、先に開催されたブロック会議での検討課題等への質疑応答を通して、社会的行動障害を呈する当事者への対策と支援、福祉サービスに繋がっていない当事者への地域での支援体制の整備、診断を啓発するための研修会、コロナ禍での多職種連携のための研修会、地域実態調査の方法などに対する各県の取り組みが紹介されました。今後の千葉県での支援に活かしていければと思います。



令和3年度 第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

2022.2.25
Web開催

全国連絡協議会に引き続き、支援コーディネーター全国会議が開催されました。今回は、「高次脳機能障害の診断方法と診断基準に資する研究」の報告がありました。昨年、家族会と支援拠点機関向けのアンケートで、「医療職や行政・福祉職の知識が希薄」や「診断できる医師の不足」を問題と感じた割合が多いと報告があり、改めて支援普及の必要性を感じました。講演後の意見交換では、急性期病院退院前に「高次脳の可能性がある」ことを伝えること、回復期リハ退院時に適切な支援機関に繋ぐこと、そして地域連携をしていくことの大切さが共有されました。



令和3年度 千葉県高次脳機能障害コーディネーター研修会

2022.2.21
Web開催

当研修会はオンラインで行われ、各支援拠点機関から医師、セラピスト、ソーシャルワーカー等、30名弱が集まりました。事例学習では多職種で構成された4つのグループに分かれて支援のプランニングを行っています。地域性や職種による考え方の違いがありましたが、皆で知恵を寄せ合い、高次脳機能障害者への長期的な支援について検討したことは貴重な機会となりました。支援拠点機関のコーディネーターが顔の見える関係になること、お互いの支援を知ること、千葉県内の支援力が一層高まることを期待しています。

2021当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会 Web開催・集合研修

2022.1.19 14:00-15:15 主催:千葉リハビリテーションセンター



▲集合研修の様子

去年度、初めて開催した当勉強会を今年度は2回に分け、開催しました。第2回目の今回は遂行機能障害・病識の低下・社会的行動障害についてでした。参加者の詳細は、Web53名、集合研修3名でした。感想では、「対応の仕方をわかりやすく説明して下さりよかった」「あるある(家族)の例えが我が家の悩みにピッタリと当てはまっていた」等の感想が聞かれました。「Webを続けてほしい」「質問できるとよかった」との声も聞かれているため、来年度の開催方法について検討中です。来年度もぜひ多くの方にご参加頂ければと思います。

第18回高次脳機能障害リハビリテーション講習会 Web開催

配信期間 2022.1.14-27 主催:千葉リハビリテーションセンター



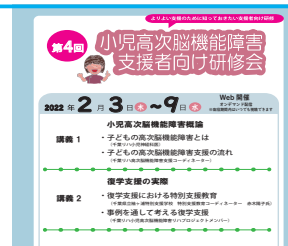
▲損保講習会のチラシ

申込者320名

第18回の講習会は神奈川県リハビリテーション病院の瀧澤学氏を講師に迎え、「地域における高次脳機能障害とは～神奈川県を取り組むを通して～」の期間配信をいたしました。聴講された方々の感想を一部紹介します。「原因疾患と症状、支援のアプローチなどがコンパクトにまとめられていて分かりやすかったです。PDF資料は今後の支援に役立つと思います」「実践的な支援の経験を聞くことができてよかった」。アンケートの回答をしてくださった皆様、ありがとうございました。

第4回小児高次脳機能障害支援者向け研修会 Web開催

配信期間 2022.2.3-9 主催:千葉リハビリテーションセンター



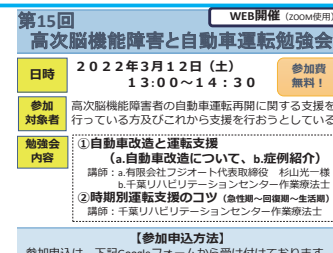
▲研修会のチラシ

申込者270名

今回は「復学支援」をテーマに、WEB研修(オンデマンド配信)にて実施しました。小児高次脳機能論(医師)、支援の流れ(SW)、復学支援における特別支援教育(特別支援教育コーディネーター)、事例を通して考える復学支援(医師・ST・心理師)を解説しました。全国各地から医師、看護師、リハビリ専門職、教育や行政関係者など270名に申込みいただき、「復学など先を見通した支援の在り方を学ぶことができた」「多職種・多機関連携の実践を学ぶことができた」など、とても好評でした。今後も普及啓発の一助となるような研修会を企画していきたいと思います。

第15回高次脳機能障害と自動車運転勉強会 Web開催

2022.3.12 13:00-14:30 主催:千葉リハビリテーションセンター



▲勉強会のチラシ

申込者29名

今年は、有限会社フジオートの杉山社長をお招きし、自動車改造についてご講演をいただきました。具体的な情報が多く今後の支援の参考になりました。また、改造車での運転支援の症例紹介や時期別運転支援のコツについて、当センター作業療法士からも講演致しました。WEB開催の為、全国の医療・福祉施設から申し込み、ご参加いただき、質疑応答も含め約2時間行われ、充実した時間になりました。また、来年度も運転支援者向けの勉強会を開催予定です。

視覚化シート作成の経緯

発症 急性期 回復期 社会的リハ 社会復帰

高次脳機能障害は、障害像が多様で個性が高く、社会的背景も考慮すると、オーダーメイドの支援が必要になることが多いです。しかし、それにはまず標準的な支援が確立されていることが大切です。千葉リハでは、回復期リハ病棟における高次脳支援を整理した視覚化シートを作成しました。シートは、左から右に向かって時間が進み、各時期に検討すべき支援を項目ごとに整理しました。復学や地域生活への復帰など**目標別に4シート**ありますが、**今回は就労を目指すシート**に沿って、入院中の支援のポイントを紹介します。

1 職業準備性ピラミッドを意識した自己管理のポイント

ここがポイント!

働くための土台「職業準備性」



中島ソシワカ



職業準備性の土台にあたる病識・健康管理、生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能をシートに位置づけることで、入院中から提案できるアプローチを明確にし、実践します。職業準備性は、障害の支援や受け入れ環境との相互関係の中で見ていく必要があります。職業生活の継続のために、本人が努力すべきこと、企業が配慮すべきこと、支援者が支援すべきことを整理するための視点として捉えることが大切です。

2 他者とのコミュニケーション

他者とのコミュニケーション
(気になる項目があればチェック → 多職種で対応方法の検討・統一)
【対象】□慣れた相手 □不慣れた相手 □特定の他者 □集団での交流
【表出】□攻撃性 □冗長性 □社会人としての応対
【理解】□聞き流らし □内容の混乱・変容 □独自の解釈



ここがポイント!

職場にふさわしい
コミュニケーションのために

失語症、注意障害、記憶障害、脱抑制などの症状がある方は、対人コミュニケーションについて以下のような問題が生じる場合があります。
【対象】慣れた相手や特定の相手は得意だが、不慣れた相手や集団での交流の場でのコミュニケーションは苦手。
【表出】話す内容にまとまりが無く要領を得ない(冗長性)、周囲の状況に気づかず一方的に話しかける、ミスを指摘されると攻撃的になる。
【理解】伝達事項を聞き漏らす、内容が混乱・変容する、内容に独自の解釈を加える。
このような問題を入院中にチェックすることで、その方に必要なリハビリを提供したり、能力に合った対処方法を考えたりしながら、ご本人と共にリハビリを進めていきます。

4 こまじのう掲示板 46

4 フィードバックと自己認識

- Deep検査結果フィードバック
- 高次脳症状の仕事への影響についての理解度確認
- 本人の高次脳に対する理解度確認
- 家族の高次脳に対する理解度確認
- 二次障害の説明



ここがポイント!

自身の症状を知ることが
対策への近道



三宅心礼師

リハビリによって障害自体の改善を目指すだけでなく、苦手な部分を補うための対策(代償手段)も大切です。この代償手段をうまく使いこなすためには、まずは現在の症状について知り、どんな対策が必要なのかを考えることが第一となります。しかし、高次脳機能障害は目に見えない障害であり、ご自身の症状になかなか気づきにくい場合も多いです。検査結果や入院生活の中で生じている課題について、面談や訓練の中で丁寧にフィードバックすることで症状への気づきを促し、代償手段の活用や、目標に向かうためのステップについて一緒に考えます。

支援項目は『入院時から退院後』の流れで進む

★成人様 入院からの高次脳新規就労/復職支援の視覚化シート			
ICF	本人及び周囲に関するアセスメント	高次脳機能障害に対するアプローチ	退院後の支援の決定
個人	本人 【本人にできること(アセスメント)】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性	【高次脳機能障害に対するアプローチ】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明	【退院後の支援の決定】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明
環境	家族 【家族にできること(アセスメント)】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 職場 【職場にできること(アセスメント)】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 医療相談 【医療相談に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性	【高次脳機能障害に対するアプローチ】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明	【退院後の支援の決定】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明
心身機能・身体構造	評価 【評価に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 説明 【説明に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 病識 【病識に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 健康管理 【健康管理に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性	【高次脳機能障害に対するアプローチ】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明	【退院後の支援の決定】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明
生活活動・参加(職業準備性)	生活リズム・スケジュールコントロール 【生活リズム・スケジュールコントロールに関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 移動・外出 【移動・外出に関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性	【高次脳機能障害に対するアプローチ】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明	【退院後の支援の決定】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明
対人技能	コミュニケーション 【コミュニケーションに関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 感情コントロール 【感情コントロールに関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 身だしなみ 【身だしなみに関するアセスメント】 生活リズム、健康管理、生活リズム、疲労コントロール、スケジュール管理、移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性	【高次脳機能障害に対するアプローチ】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明	【退院後の支援の決定】 ①生活リズム・健康管理・生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能、職業準備性 ②高次脳機能障害に対する理解度確認 ③本人の高次脳に対する理解度確認 ④家族の高次脳に対する理解度確認 ⑤二次障害の説明

3 グループ訓練

ここがポイント!

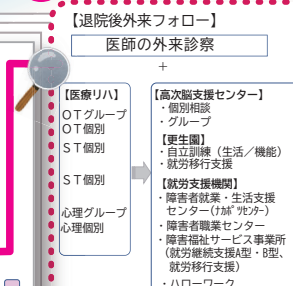
自分の症状を知る・周りに合わせる

知的気づきに対するアプローチを目的に、PT、OT、ST、心理それぞれでグループ訓練を行っています。グループの内容は以下の通りです。PTではポチャなど体をいながら、コミュニケーションが図りやすい課題を実施しています。OTでは「ワークサンプル」用紙、数値チェックやプリント課題を使用し、注意機能の回復・維持訓練やふりかえりを行っています。STでは意見交換やゲームを用いて、実用的コミュニケーション訓練を実施しています。心理では高次脳機能障害についての一般的な症状についての解説と認知課題を通して高次脳機能の働きの体験をし、対処法について参加メンバーで話し合っています。



□グループ訓練(PT・OT・ST・心理) 高次脳グループ一覧表参照

5 退院後



ここがポイント!

退院後も切れ目ない
リハビリ・支援を



土屋ソシワカ

入院という限られた環境から、退院をして複雑な社会生活に戻ると、本人は生活のしにくさに直直し、高次脳機能障害に対する認識が変化することが多くあります。退院後も外来フォローをしながら、その方の状況に合わせて医療リハ、社会リハ、職業リハを行うことで、新規就労や復職、その後の就労定着に繋がります。退院後本人や家族が困った時に「どこに相談をしたらよいかわからない」とならないよう、外来リハの継続、もしくは適切な支援機関に引き継ぐといった切れ目のない支援が大切です。



▲医師・看護師・PT・OT・ST・心理師・ソーシャルワーカーからなるプロジェクトメンバー

おわりに

今回作成した視覚化シートは、患者さん各々の個人・環境因子などをふまえて、段階ごとの支援が行えるように工夫されています。このシートを活用することによって、支援者は、患者さんに対して必要な関わりを適切なタイミングで検討・提供し、それを支援者間で共有することができず。また、支援者の経験値による影響を少なくするメリットもあります。今後は、シートを活用しながら内容を見直すとともに、スタッフへの教育、当センターの高次脳支援の紹介、さらには、簡易化して患者さんへの説明資料としても使用することを目指したいと考えています。



赤萩医師

5 こまじのう掲示板 46



▼イラストレーターの柴本礼氏が
手がけた学術総会ポスター



日本高次脳機能障害学会学術集会で発表しました!

第45回の高次脳学会は陸奥(みちのく)福島県、郡山で開催されました。
支援センターから2題のポスター発表をしています。今回の支援センター
だよりは、発表したスタッフからの報告を掲載します。



▲ポスターの前で 左から長谷川、岡本、三浦

今回の高次脳機能障害学会は、コロナ禍の隙間を縫うように、現地とWebのハイブリット形式で開催され、私たちは現地で参加しました。大きな会場は閑散としており、学会会としての雰囲気ではありませんでしたが、現地発表の生配信や、Webでのポスター発表・口述発表の会場があるなど、コロナ禍に則した新しい形の大会でした。現地参加の人数が少ないことで、発表者に詳しく話を聞く機会も取りやすく、得た知識をぜひ今後の業務に活かしたいと思います。

『聴覚異常により社会生活に支障をきたした高次脳機能障害者への支援
～千葉リハつながるグループの参加と外部医療機関との連携を通して～』 岡本美希子

ポスター
発表1

概要: グループの利用や外部医療機関との連携により社会復帰につながった症例のグループ効果と医療連携の有用さを考察しました。

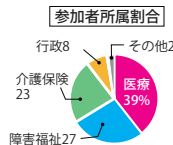
『青年期の高次脳機能障害者が抱える課題と必要な支援
～就労準備プログラムへの適応状況から～』 三浦麻由佳

ポスター
発表2

概要: 青年期の当事者がグループを遅刻・欠席することが多い原因を分析し、アイデンティティ形成の課題との関連を考察しました。

「高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座」が終了しました!

今年度で3回目の取り組みとなった地域支援者向けの連続講座は、Webと集合研修を併用しながら2/22に無事4回が終了しました。申込者は延べ1417名、所属の割合は右のグラフとなりました。



集合研修に参加された方から感想をいただきました。

第3回集合研修に参加して

高次脳機能障害を持つ方を対象にした障害者支援施設で生活支援員として働いて2年目になります。今回の講座は、千葉リハの高次脳支援の歩みから高次脳の基本(理論から事例紹介まで)がまとまっております。日々高次脳を持つ方々と関わっている中でのあるあるが多く登場し、課題解決のヒントを持ち帰ることができました。高次脳の症状は人それぞれで、支援が必要なポイントも様々です。高次脳支援には課題の原因を探っていく効果的な対処法を考える必要がありますが、それには多職種協働が不可欠です。福祉職として本人らしい生活を叶える役割を果たしていくには何をすべきか、今回の講座は多職種協働を改めて意識する良い機会にもなりました。

更生園 加藤芽生

第1回 2021/8/18-24 高次脳機能障害概論
講師 赤荻Dr 千葉リハ脳神経内科

第2回 2021/10/21-27 注意障害・神経疲労
講師 揚戸薫 高次脳支援センタースタッフ

集合研修開催 第3回 2021/12/17-23 記憶障害・遂行機能障害
講師 長谷川純子 高次脳支援部 部長

第4回 2022/2/16-22 社会的行動障害・失語症
講師 先崎Dr 千葉リハ精神科
高橋誠貴 リハ治療局

参加された皆様、連続講座2021を聴講していただき誠にありがとうございました。中止となった集合研修もありましたが、Webでは多くの方々にアクセスしていただきました。開催形式がどうなるかわかりませんが、高次脳機能障害者の方への支援に役立てていただくよう、来年度も同様の連続講座を予定しています。お時間の許す限りではありますが、皆様のご参加をお待ちしております。

旭神経内科リハビリテーション病院

集団訓練「さくらの会」では、以前行った「WEBお茶会」の発展形として、多施設同時開催のオンラインレクリエーションを昨年11月に初めて行いました。内容は、4分割した画像を1枚ずつ見ていき、その画像が何かに当たるクイズでした。皆さん別の場所に参加されている方々と盛り上がっている様子が見え、今後様々な施設間交流の可能性を感じることができました。また、1月末の地域リハビリテーション広域支援センターとの合同連絡協議会では、現状や困り事など話して頂きました。後日、動画を確認した際には各々自身の様子を振り返るきっかけになった様子でした。オンライン方式の参加は各所より好評を頂いているため、新年度も企画していきたいと思っています。



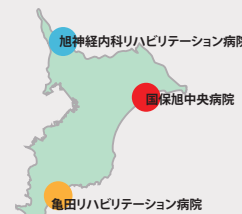
▲オンラインレクリエーション



▲合同連絡協議会

亀田リハビリテーション病院

1月20日にオンライン形式で教育研修会を行いました。『脳損傷者の運転再開支援について』というテーマで行い、第一部は東京都リハビリテーション病院武原先生による特別講演会、第二部は事例検討会を行いました。武原先生には、高次脳機能障害の自動車運転の問いと憂いについて講演をしていただきました。統計データをもとにしながら、自動車運転に関する様々な課題についてのポイントを丁寧に話していただきました。第二部は2つの事例紹介を行い急性期と生活期のそれぞれの課題を討議しました。時期による課題が明確になりました。運転に関する問題を千葉県全体としても整理していくことになっておりますが、その一助になりとても有意義な研修会でした。



総合病院 国保旭中央病院

12月16日に高次脳機能障害支援研修会を開催致しました。参加者は60名、看護師、作業療法士、社会福祉士、ケアマネジャー、就労支援施設職員など、様々な職種や分野の方々が参加されました。今年は「記憶障害」をテーマとし、講義と模擬事例のグループワークを企画しました。活発な討議がなされ、各職種の視点に基づいた様々な意見を共有することが出来ました。内容について多くの参加者から「非常に参考になった」との評価を頂き、「また企画してほしい」といった声も頂きました。当院の高次脳機能障害支援拠点機関としての活動も2年目になりました。今回頂いた意見や要望も参考にしながら、次年度も引き続き普及啓発に係る研修事業を企画して行きたいと考えております。



写真2枚は研修会の様子